

# 七小 国語科でつきたい力(国語系統表)

令和2年度 七小研究部

	子供の実態	つきたい力(つけてほしい力)	新指導要領	備考
1年	<p>○「聞く」 ・友達の話を興味をもって聞くことができる</p> <p>○「話す」 ・決まったことは大きい声ではっきり話すことができる ・正しい話形は概ねできているが、常に意識させたい ・積極性に差はあるが、自分の意見は全員言える</p> <p>○「書く」 ・黒板の視写・文字の書き順・助詞は一部の児童に間違いが目立つ ・文章を書くときは、全員、漢字やカタカナをばらばら使おうとしている ・鉛筆の持ち方と姿勢は、毎回の声かけが必要である</p> <p>○「読む」 ・大きい声で文字を正しく読める ・本を読むことを楽しむ</p> <p>○動作化の体験 ・全員、自己表現を体験し、三分の二程度は積極的に取り組む</p> <p>○類似点・相違点 ・文字・言葉・文・文章に於いて、類似点や相違点を見つける体験はしている。</p>	<p>○「聞く」 ・友達の話を聞く</p> <p>○「話す」 ・「です。」「ます。」言葉で話す ・友達に自分の意見を言う</p> <p>○「書く」 ・「は」と「わ」、「へ」と「え」、「を」と「お」の使い分け ・日記や作文に漢字やカタカナを使う習慣 ・黒板の文字の正しい視写 ・正しい筆順 ・正しい鉛筆の持ち方 ・文字を書く姿勢</p> <p>○「読む」 ・大きい声で文を正しく読む ・本を読むことを楽しむ</p> <p>○物語文の読みにおける登場人物等への同化体験、異化体験を通して自分を表現する経験</p> <p>○類似点・相違点を見つける体験</p>	<p>[知識及び技能]</p> <p>(1)言葉の特徴や使い方に関する事項 ア 言葉の働きに気付く(事物の内容表現・経験伝達) イ 音節・文字の関係、アクセント、姿勢・口形・発声・発音に注意して話す ウ 長音・拗音・促音・撥音などの表記、助詞・句読点・かぎ(「」)の使い方、平仮名・片仮名の読み書きができ、文や文章で使う エ 配当漢字の読み書きができ、文や文章で使う オ 身近な語句の使用・語彙を豊かにする カ 主語・述語の関係に気付く キ 敬体の文章に慣れる ク 語のまとまり・言葉の響きなどに気を付けて音読する</p> <p>(2)情報の扱い方に関する事項 ア 情報間の関係(共通・相違・順序)を理解する</p> <p>(3)言語文化に関する事項 ア 音話・神話・伝承などの読み聞かせを聞いて、伝統的言語文化に親しむ イ 古くからの言葉遊びに触れ、その豊かさに気付く ウ 書写に関する事項を理解し使う エ 姿勢・筆記具の持ち方を正しくして使う カ 点画の書き方・文字の形に注意し、筆順に従って丁寧に書く キ 点画相互の接し方・交わり方、長短・方向などに注意して、文字を正しく書く ク 読書に親しみ、いろいろな本があることを知る</p> <p>[思考力・判断力・表現力等]</p> <p>「A 話すこと・聞くこと」 ア 身近なこと・経験したことなどから話題を決め、伝え合うために必要な事柄を選ぶ イ 行動・経験に基づき、相手に伝わるよう話す順序を考える ウ 伝えたい事柄・相手に応じて、声の大きさ・速さを工夫する エ 話し手が知らせたいこと・自分が聞きたいことを落とさず集中して聞き、話の内容を捉えて感想をもつ オ 互いの話に関心をもち、相手の発言を受けて話をつなぐ</p> <p>「B 書くこと」 ア 経験・想像から書く題材を見付け、必要な事柄を集めたり確かめたりして、伝えたいことを明確にする イ 思い・考えが明確になるように、事柄の順序に沿って簡単な構成を考える ウ 語と語・文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫する エ 文章を読み返す習慣をつけ、間違いを直し、文の続き方を確かめる オ 感想を伝え合い、自分の文章の内容や表現のよいところを見付ける</p> <p>「C 読むこと」 ア 時間・事柄の順序などを考えながら内容の大体を捉える イ 場面の様子・登場人物の行動など、内容の大体を捉える ウ 文章中の重要な語や文を考えて選び出す エ 場面の様子に着目し、登場人物の行動を具体的に想像する オ 文章の内容と自分の体験とを結びつけて、感想をもつ カ 文章を読んで感じたこと・分かったことを共有する</p>	
2年	<p>○「話す・聞く」 ・理由を説明したり、順序を考えて説明したりできるようになった ・友達の発表を聞いて、質問したり疑問を付け足したりできる児童が増えた</p> <p>○「読む」 ・読書好きな児童が多い ・物語の場面に応じた複数の登場人物の読み取りができる ・音読を楽しみずすんで取り組む(声の大きさ・高さ・読む速さの工夫) ・読み取りの力に個人差がある</p> <p>○「書く」 ・既習の漢字は読み書きできる(文章で漢字を使えない児童が多い) ・(筆順無視の児童が複数いる) ・俳句や詩をすずんで作る児童が多い ・濁点の忘れは見受けられるが、「は」と「わ」の使い分けはできている ・カタカナ表記の言葉をひらがな表記する児童がいる</p>	<p>○「読む」 ・自分で本が読める</p> <p>○「書く」 ・1・2年の漢字が読めて、書ける ・正しい筆順を知る ・部首を知る ・短文が書ける</p> <p>○「技能」 ・正しく鉛筆が持てる</p>	<p>「B 書くこと」 ア 経験・想像から書く題材を見付け、必要な事柄を集めたり確かめたりして、伝えたいことを明確にする イ 思い・考えが明確になるように、事柄の順序に沿って簡単な構成を考える ウ 語と語・文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫する エ 文章を読み返す習慣をつけ、間違いを直し、文の続き方を確かめる オ 感想を伝え合い、自分の文章の内容や表現のよいところを見付ける</p> <p>「C 読むこと」 ア 時間・事柄の順序などを考えながら内容の大体を捉える イ 場面の様子・登場人物の行動など、内容の大体を捉える ウ 文章中の重要な語や文を考えて選び出す エ 場面の様子に着目し、登場人物の行動を具体的に想像する オ 文章の内容と自分の体験とを結びつけて、感想をもつ カ 文章を読んで感じたこと・分かったことを共有する</p>	

<p style="text-align: center;"><b>3年</b></p>	<p>○「読む」 ・読書が自分でできる(習慣はない) ・音読が習慣化できた(家庭の協力あり) …できない子、数名 ・新出漢字が読める</p> <p>○「書く」 ・漢字ノートに自分で練習できる …できない子、2人 ・カタカナがすべて書ける …かけない子、数名</p> <p>○「言語」 ・自分で辞書引きできる(国語辞典)</p> <p>○学習習慣・学習規律 ・ドリル学習が自分でできる …できない子、数名 ・宿題を忘れず提出する …できない子、数名 ・鉛筆が正しく持てない …正しく持てる子、数名 …ほとんどが正しく持てていない …極端に持ち方が悪い子、数名 ・机の上に学習用具がきちんとおけない …物が落ちる …落ちても気付かない …気付いても拾わない</p>	<p>○「聞く」 ・話し手の方へ向く・うなづく・感想や質問 ○聞き方 アイウエオ ア 相手を良く見て イ 一生懸命 ウ うなづきながら エ 笑顔で オ 終わりまで</p> <p>○「話す」 ・一人で発表・適切な声量・スピーチ活動 ・滑らかな音読 ○話し方 カキクケコ カ 簡単に キ 聞こえる声で ク 口を大きく開けて ケ 決して急がず コ 言葉使いに気をつけて</p> <p>○「書く」 ・体験や感想を文章に書き表す・原稿用紙の使い方・学習した漢字を使う・日記や視写による書き表す表現の習慣化</p> <p>○「読む」 ・10～15分程度、集中して読書する ・読後の感想を伝える・気持ちを想像する</p> <p>○辞書が引ける</p>	<p>〔知識及び技能〕 (1)言葉の特徴や使いに関する事項 ア 言葉の働きに気付く(考え・思いの表現) イ 相手を見て話し・聞き、言葉の抑揚・強弱・間の取り方などに注意して話す ウ 漢字と仮名を用いた表記、送り仮名の付け方、改行の仕方を理解して文や文章で使う、句読点を適切に打つ、簡単な単語のローマ字を読む・書く エ 配当漢字の読み書きができ、文や文章で使う オ 様子・行動、気持ち・性格を表す語句の量を増し、話や文章の中で使い、語句のまとまりを理解し、語彙を豊かにする カ 主語・述語、修飾・被修飾の関係、指示語・接続語・段落の役割を理解する キ 敬体と常体の違いに注意しながら書く ク 文章全体の構成・内容の大体を意識しながら音読する</p> <p>(2)情報の扱いに関する事項 ア 考え・理由・事例、全体と中心など、情報間の関係を理解する イ 比較・分類、必要な語句の書き留め、引用の仕方・出典の示し方、辞書・事典の使い方を理解し、使う</p> <p>(3)言語文化に関する事項 ア 平易な文語調短歌・俳句を音読・暗唱し響きやリズムに親しむ イ こたわど・慣用句、故事成語などの意味を知り、使う ウ 漢字の構成(へん・つくり)について理解する エ 書写に関する事項を理解し使う イ 文字の組み立て方を理解し、形を整えて書く ・漢字・仮名の大きさ、配列に注意して書く ・毛筆を使用して点画の書き方への理解を深め、筆圧に注意して書く オ 幅広く読書に親しみ、必要な知識・情報を得ることに役立つことに気付く</p> <p>〔思考力・判断力・表現力等〕 「A 話すこと・聞くこと」 ア 目的を意識し、生活から話題を決め、集めた材料を比較・分類し、伝え合うために必要な事柄を選ぶ イ 相手に伝わるように、理由・事例などを挙げ、話の中心が明確になるよう話の構成を考える ウ 話の中心・話す場面を意識し、抑揚・強弱・間の取り方などを工夫する エ 必要なことを記録したり質問したりしながら聞き、話し手が伝えたいこと・自分が聞きたいことの中心を捉え、自分の考えをもつ オ 目的・進め方を確認し、司会などの役割を果たしながら話し合い、互いの意見の共通点・相違点に着目して、考えをまとめる</p>	
<p style="text-align: center;"><b>4年</b></p>	<p>○「話す・聞く」「書く」 ・漢字の定着に課題が見られる</p> <p>・挙手してすすんで発言する児童が固定化(自信がなく発言に消極的)</p> <p>・文章を書くとき、書き出しや表現の仕方を工夫することができるようになった</p> <p>○「読む」 ・読書好きだが国語に対する苦手意識がある</p> <p>・「はじめ・なか・おわり」の文章構成を捉えることができるようになった</p> <p>・物語文では、登場人物の気持ちを想像し、自分なりの考えをもつことができるようになった</p> <p>・辞書を活用できる(引き方が速い)</p> <p>・短歌や俳句の暗唱に楽しんで取り組んでいた</p>	<p>○「話す・聞く」 ・発表時のルールなど、児童の間で決まっていると良い(話し方、聞き方など)</p> <p>○「書く」 ・目的にあった表現方法で書く</p> <p>・物語の感想等、自分の考えや思いを書くことができる</p> <p>○「読む」 ・物語の感想等、自分の考えや思いをもつ</p> <p>○「知識・技能」 ・文法の基礎・基本を身に付ける</p>	<p>明確になるよう話の構成を考える ウ 話の中心・話す場面を意識し、抑揚・強弱・間の取り方などを工夫する エ 必要なことを記録したり質問したりしながら聞き、話し手が伝えたいこと・自分が聞きたいことの中心を捉え、自分の考えをもつ オ 目的・進め方を確認し、司会などの役割を果たしながら話し合い、互いの意見の共通点・相違点に着目して、考えをまとめる</p> <p>「B 書くこと」 ア 相手・目的を意識し、経験・想像から書く題材を選び、集めた材料を比較・分類したりして、伝えたいことを明確にする イ 書く内容の中心を明確にし、内容のまとまりで段落をつくったり、段落相互の関係に注意したりして、文章の構成を考える ウ 自分の考えとその理由・事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫する エ 間違いを正し、相手・目的を意識した表現になっているかを確かめたりして、文や文章を整える オ 書こうとしたことが明確になっているかなど、文章に対する感想を伝え合い、自分の文章のよいところを見付ける</p> <p>「C 読むこと」 ア 段落相互の関係に着目しながら、考えとその理由・事例との関係などについて、叙述を基に捉える イ 登場人物の行動・気持ちなどについて、叙述を基に捉える ウ 目的を意識し、中心となる語や文を見付けて要約する エ 登場人物の気持ちの変化・性格・情景について、場面の移り変わり結び付けて具体的に想像する オ 文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもつ カ 文章を読んで感じたこと・分かったことを共有し、一人一人の感じ方などに違いがある</p>	

<p>5年</p>	<p>○「話す・聞く」 ・自分の考えをもっていて、発言に積極的な児童と消極的な児童に分かれている</p> <p>○「読む」 ・読書が好き</p> <p>・物語文や説明文を読む際に筆者のしかけを見つげられるようになってきた</p> <p>・友達の考えから自分の考えを広げたり深めたりすることができるようになってきた</p> <p>○「書く」 ・読解で学んだ表現の工夫を自分の文章で生かそうとしていた</p> <p>○「言語」 ・漢字の定着 ・文の構造の理解が不十分 ・辞書を活用している</p>	<p>○「話す」 ・少人数の話し合いにより考えを広げたりまとめる力をつける</p> <p>○「聞く」 ・反応しながら聞く ・相手の話を聞き、話し手の考えを比較しながら自分の考えをもつ</p> <p>○「読む」 ・物語では、中心人物がどのような事件で変化したのかを見つける楽しさを味わわせる ・説明文では、構成を考え、筆者の伝えたいことを見つける楽しさを味わわせる</p> <p>○「書く」 ・「はじめ・なか・おわり」を意識した文章づくりを日常的に取り入れる ・文章を書く習慣をつける ・表現の工夫 ・自分で推敲、校正ができる</p>	<p>〔知識及び技能〕</p> <p>(1)言葉の特徴や使い方に関する事項 ア 言葉の働きに気付く(相手とのつながりをつくる) イ 話し言葉と書き言葉との違いに気付く ウ 文や文章の中で漢字と仮名を適切に使い分け、送り仮名・仮名遣いに注意して正しく書く エ 配当漢字の読み書きができ、文や文章で使う オ 思考に関わる語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、語句と語句の関係、語句の構成や変化について理解し、語彙を豊かにする、語感・言葉の使い方に対する感覚を意識し、語や語句を使う カ 文中の語句の係り方・語順、文と文との接続の関係、話や文章の構成・展開、種類・特徴について理解する キ 日常よく使われる敬語を理解し使い慣れる ク 比喩・反復などの表現の工夫に気付く ケ 文章を音読したり朗読したりする</p> <p>(2)情報の扱い方に関する事項 ア 原因結果など、情報間の関係を理解する イ 情報間の関係付けの仕方、図などによる語句間の関係の表し方を理解し使う (3)言語文化に関する事項 ア 親しみやすい古文・漢文、近代以降の文語調の文章を音読するなどして、言葉の響き・リズムに親しむ イ 古典解説文を読んだり、作品内容の大体を知ったりすることを通して、昔の人のものの見方・感じ方を知る ウ 語句の由来に関心をもち、時間の経過による言葉の変化・世代による言葉の違いに気付く、共通語と方言との違いを理解する、仮名・漢字の由来、特質などについて理解する エ 書写に関する事項を理解し使う ・用紙全体との関係に注意し、文字の大きさ・配列などを決め、書く速さを意識して書く ・毛筆を使用し、穂先の動きと点画のつながりを意識して書く ・目的に応じて筆記具を選び、その特徴を生かして書く オ 日常的に読書に親しみ、読書が、自分の考えを広げることによって役立つことに気付く</p> <p>〔思考力・判断力・表現力等〕</p> <p>「A 話すこと・聞くこと」 ア 目的を意図に応じて、生活から話題を決め、集めた材料を分類し関係付け、伝え合う内容を検討する イ 話の内容が明確になるように、事実・感想・意見を区別するなど、話の構成を考える ウ 資料を活用するなどして、考えが伝わるように表現を工夫する エ 話し手の目的・自分が聞こうとする意図に応じて、話の内容を捉え、話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめる オ 互いの立場・意図を明確にしなが計画的に話し合い、考えを広げたりまとめたりする</p> <p>「B 書くこと」 ア 目的・意図に応じて、感じたこと・考えたことなどから書く題材を選び、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝えたいことを明確にする イ 筋道の通った文章となるように、文章全体の構成・展開を考える ウ 目的・意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりし、事実・感想・意見を区別してかくなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫する エ 引用したり、図表・グラフを用いたりして、考えが伝わるように工夫する オ 文章全体の構成・書き表し方などに着目し、文や文章を整える カ 文章全体の構成・展開が明確になっているかなど、文章に対する感想・意見を伝え合い自分の文章の良いところを見付ける</p> <p>「C 読むこと」 ア 事実・感想・意見などとの関係を叙述を基に押さえ、文章全体の構成を捉えて要旨を把握する イ 登場人物の相互関係・心情などについて、描写を基に捉える ウ 目的を意識し、中心となる語や文を見付けて要約する エ 人物像・物語などの全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりする オ 文章を読んで理解したことに基いて、自分の考えをまとめる カ 文章を読んでまとめた意見・感想を共有し、自分の考えを広げる</p>	
<p>6年</p>	<p>○「話す・聞く」 ・資料を活用したポスターをすすんで発表し、感想を伝え合うことができる ・友達の発表と自分との相違点・共通点を見つけ、良いところを自分に取り入れようとする事ができた</p> <p>○「読む」 ・文章を読んで理解したことに基いて自分の考えをまとめることができた ・登場人物の相互関係や心情を描写から読み取ることができた ・作者を深く学ぶことで、作品自体もより深く学ぶことができた</p> <p>○「書く」 ・「はじめ・なか・おわり」の構成を考えて文章を書くことができるようになった ・資料を活用して、自分の伝えたいことが相手に伝わるように工夫して文章を書くことができるようになった</p>			